

桜 島

火山活動度レベル

レベル 2 (比較的静穏な噴火活動)で経過しました。

概 況

爆発的噴火等¹⁾は発生しませんでした。B型地震がやや増えていますが、桜島の活動としては比較的静穏な状況が続いています。

・噴火活動の状況(表 1)

ごく小規模の噴火は発生しましたが、爆発的噴火等¹⁾は発生しませんでした。

・噴煙活動の状況(図 2)

灰白色の噴煙が時々観測され、最高高度は7日の800mでした。

・降灰の状況(表 2、図 2、図 3)

鹿児島地方気象台における観測²⁾では、降灰はありませんでした。

・地震・微動活動の状況(表 3、図 2、図 3、図 4)

火山性地震は、3月下旬にB型地震が日回数で160回を超える日があるなど、やや増加しました。長期的には少ない状況です。

火山性微動は16回発生し、いずれも継続時間の短いもの(継続時間計13分)でした。

・地殻変動の状況(図 6)

GPS連続観測による地殻変動観測では、長期的に東西方向のわずかな伸びの傾向が続いています。

1) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは一定規模以上の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。

2) 鹿児島地方気象台(南岳の西南西、約11km)における前日09時~当日09時に降った1㎡あたりの総降灰量を観測しています。

震央分布図等の資料作成にあたっては、気象庁のデータの他、鹿児島大学、京都大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを使用しています。また、地図の作成にあたっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 50m メッシュ(標高)、25000分の1の地形図を使用しています(承認番号:平17総使、第503号)

表 1 最近 1 年間の月別噴火¹⁾回数(2005 年 4 月～2006 年 3 月)

2005～2006 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
噴火回数	-	-	1	8	-	2	2	1	2	1	3	-
爆発的噴火	-	-	1	8	-	-	-	1	1	1	3	-

3 月はごく小規模の噴火は発生しましたが、爆発的噴火等は発生しませんでした。

表 2 最近 1 年間の月別降灰量²⁾と降灰日数(2005 年 4 月～2006 年 3 月)

2005～2006 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
降灰量(g/m ²)	-	-	0	-	-	2	0	1	-	-	-	-
降灰日数	-	-	1	-	-	2	5	1	-	-	-	-

「-」は降灰なし、「0」は 1 m²あたり 0.5 g/m²未満を表します。

3 月は、鹿児島地方气象台では降灰は観測されませんでした。

表 3 最近 1 年間の地震・微動回数(B 点：2005 年 4 月～2006 年 3 月)

2005～2006 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
地震回数	125	236	50	129	132	303	202	485	532	1128	586	1933
微動回数	3	2	0	29	2	5	0	2	21	12	13	16

3 月は、火山性地震が 1933 回増加しました。その多くは B 型地震でした。

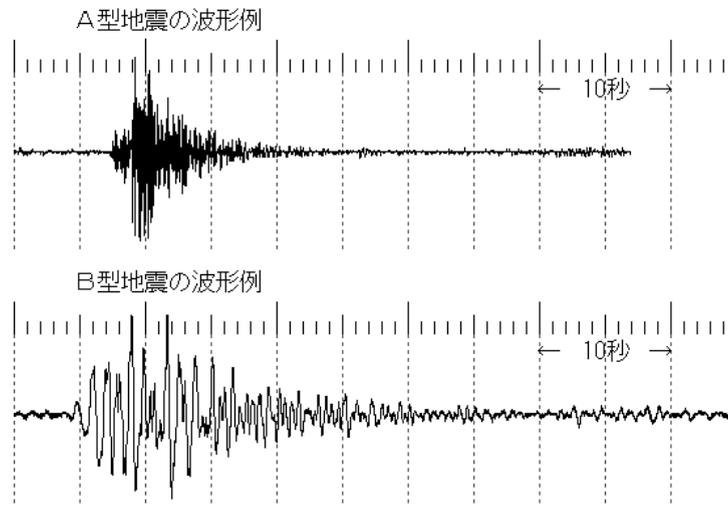


図 1 桜島における火山性 A 型地震と B 型地震の波形例

桜島で発生する火山性地震には、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩盤破壊によって発生する、高周波で P・S 波が明瞭な A 型地震や、マグマが火道を上昇するときの柔らかい部分の破壊やマグマの発泡現象によって発生する、低周波の B 型地震などがあります。

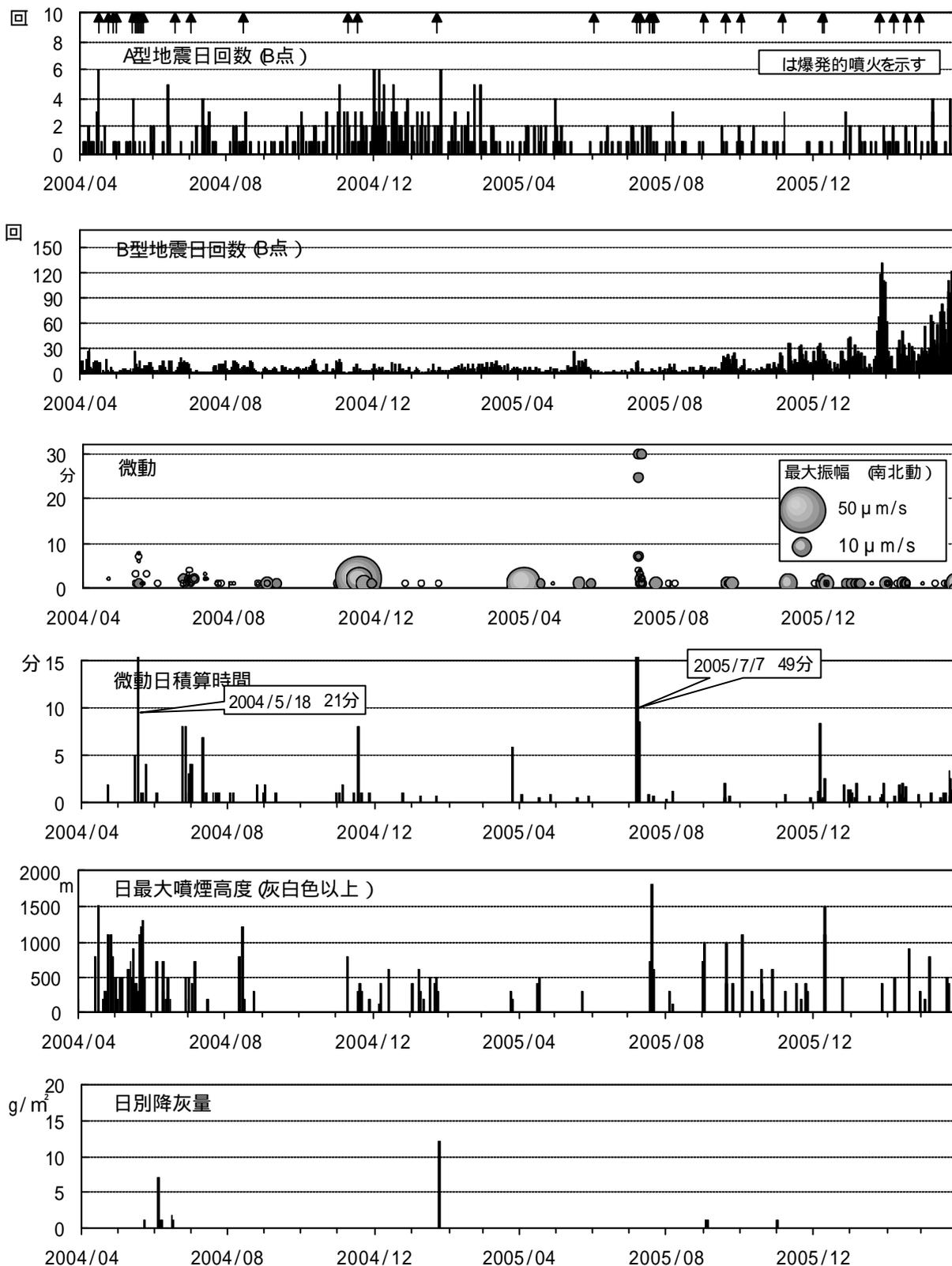


図 2 最近 2 年間の火山活動経過図(2004 年 4 月 ~ 2006 年 3 月)

3 月の火山性 A 型地震は、月合計で 17 回観測しました。

火山性 B 型地震は、月合計で 1915 回観測しました。

火山性微動は、月合計で 16 回 (継続時間計 13 分) 観測しました。

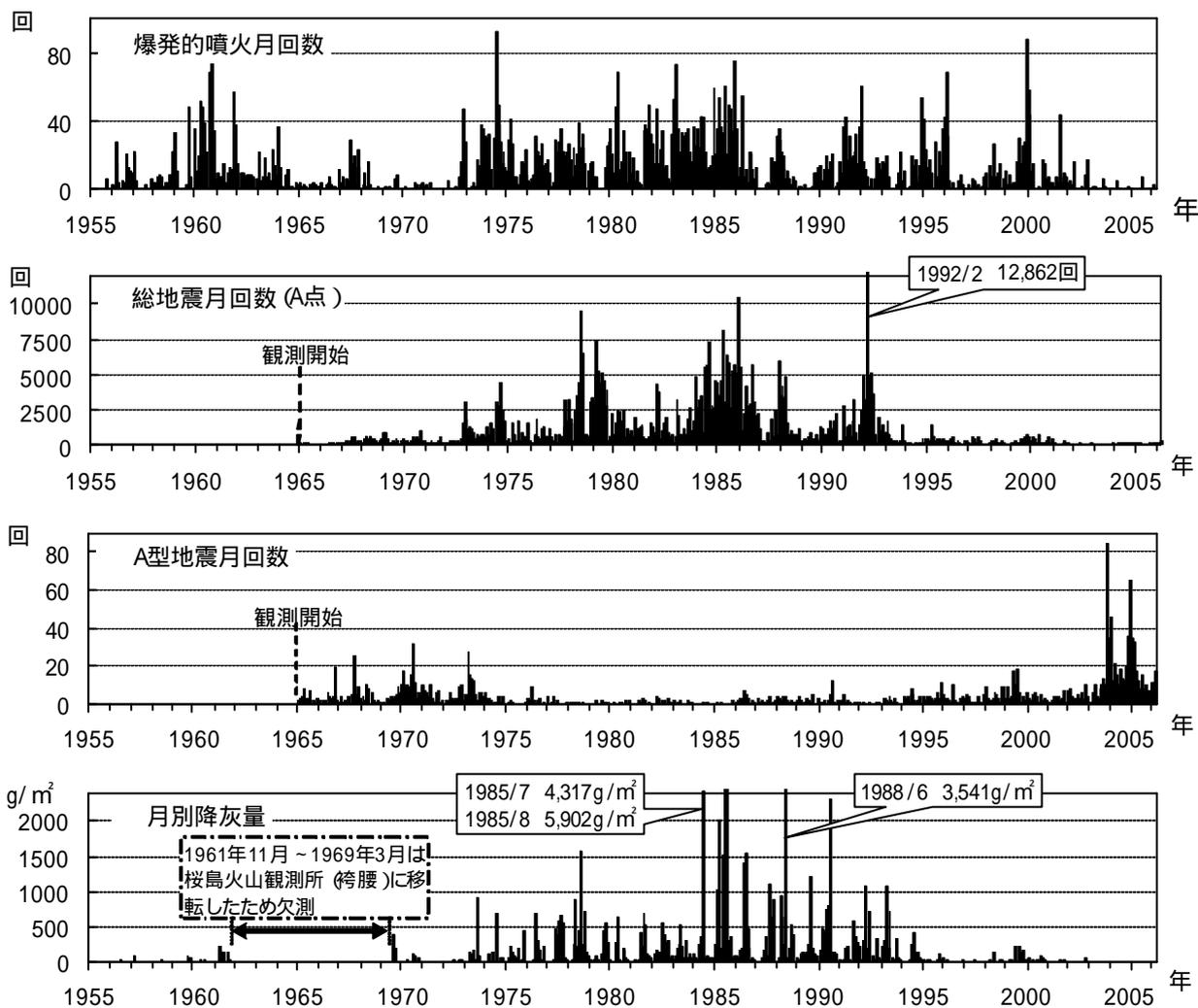


図3 長期の火山活動経過図(1955年1月～2006年3月)
爆発的噴火や火山性地震は、長期的には少ない傾向が続いています。

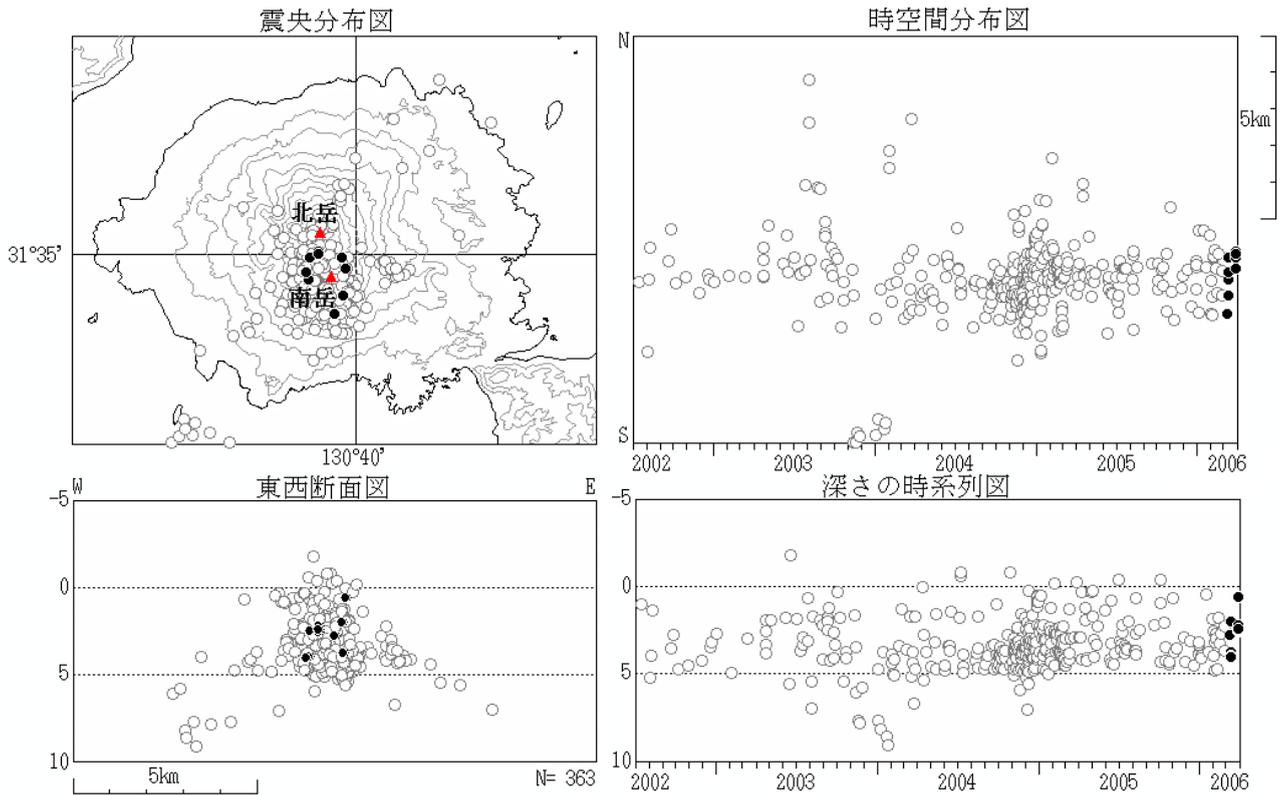


図 4 火山性 A 型地震の震源分布図(2002 年 7 月 ~ 2006 年 3 月)

震源は南岳付近の海面下 0 ~ 5 km に分布しました。

今期間の震源は黒丸で表示しています。

本資料は、気象庁データの他、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを用いて作成しています。本資料の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図 50 m メッシュ(標高)を利用しています。

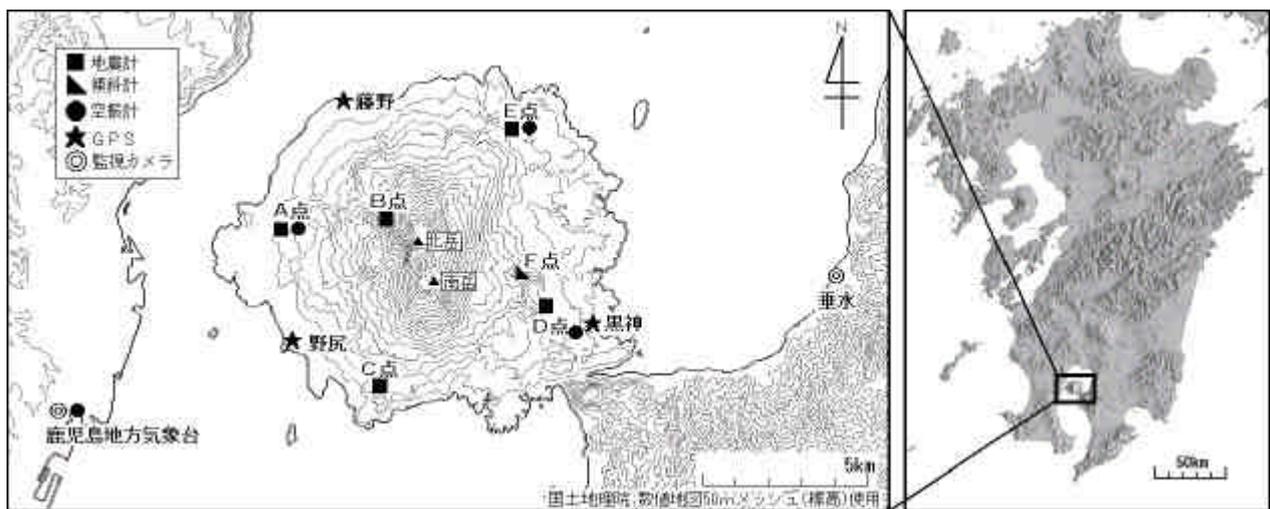
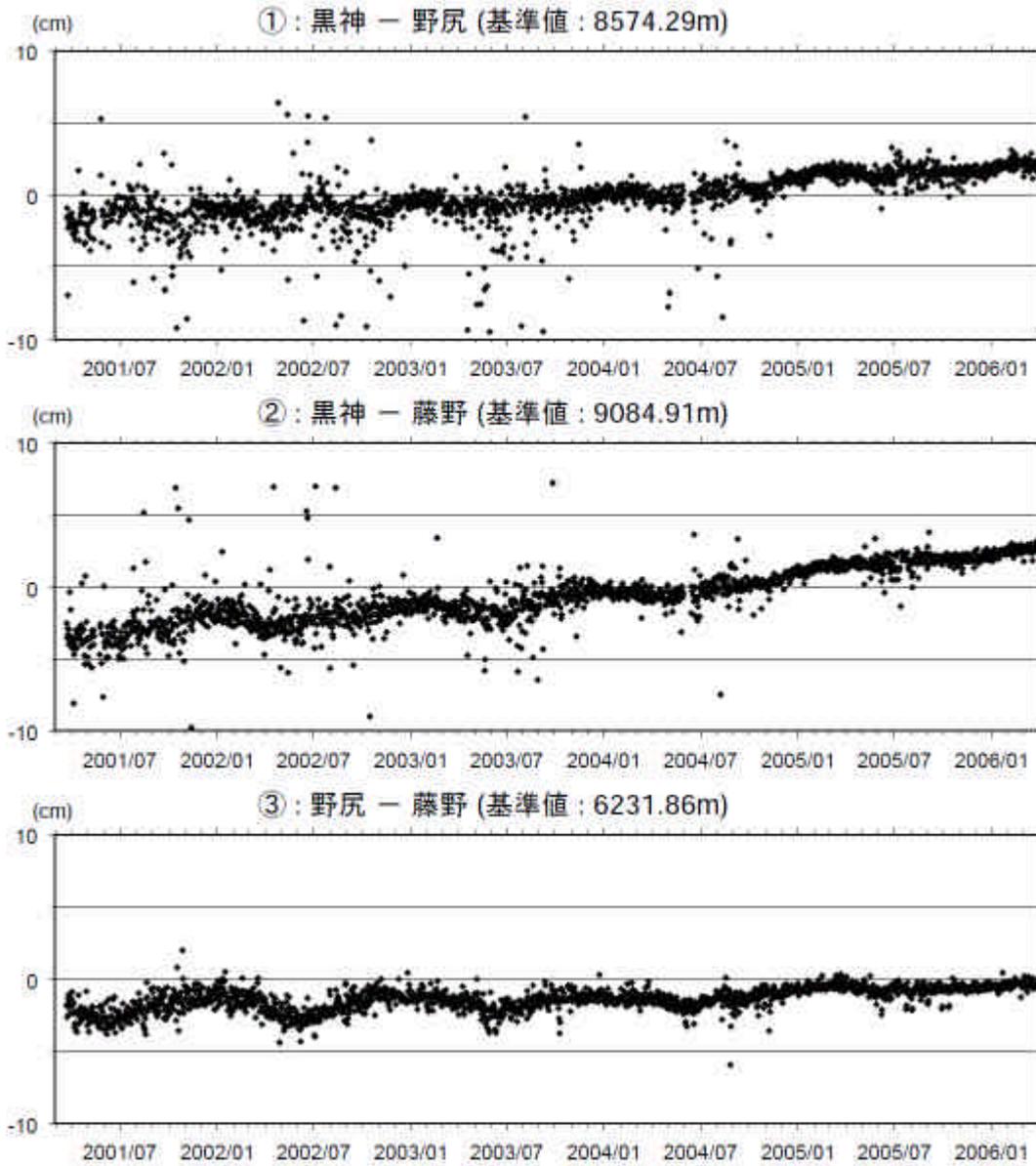


図 5 桜島観測点配置図



基線長変化グラフの空白部分は欠測



図6 GPSによる基線長変化(2001年3月22日~2006年3月31日)
GPS連続観測による観測では、長期的には東西方向にわずかな伸びの傾向が続いています。